



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(142)

2021年6月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

みんなで支えよう

後援会 会長 小澤 周司



みなさん、こんにちは。
このたび、後援会会長に就任した小澤周司です。

私は千葉県にあるJ津田沼教会の会員です。学生時代にJ大阪教会で受洗し、社会人となってからは農業畜産関係の技術者として働き、北海道から沖縄まで各地の教会にお世話になってきました。現在、子供三人もそれぞれに独立して孫七人に恵まれ、年金生活者の一人となりましたが、多分にもれず老々介護に迫られる身でもあります。

さて、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校は、小さな神学校から発展し、およそ五十年前から社会福祉分野の学科や大学院を拡充して、卒業生の人数も四千名に達しようとしています。創立当初から、一人ひとりを大切にする教育理念が守られ、キリスト教

主義による少人数教育が実施されてきました。キリストの心を心とし、神と人との仕える働き人を育て、この世に送り出しています。卒業生は牧師として、また、社会福祉や臨床心理の最前線の現場において、コロナ禍にもめげず私たちのために頑張ってくださいます。

これら学校教育を支えているのは「現場で良い働きをしているルーテルの卒業生こそが、私たちの勲章です」とあたたかっている教職員の方々です。一方で、学校の福祉設備の改善、通信環境の整備、学校図書の実用など沢山の課題に対応していく必要があります。

後援会は、「学校のために祈り、人材を送り、献金する」活動を通して学校を支えています。これからも、みんなで支えましょう。

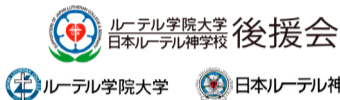


篤い祈りと 尊い献金に支えられて

2020年度は約1,900万円の献金をいただき、教育施設・備品の拡充整備、図書・教材の購入、奨学金、障がい学生へのサポート、神学校教育のために用いさせていただきました。



後援会は皆様のお支えに心から感謝します。
今年度も目標額2,500万円達成をめざして活動を進めてまいります。



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会
ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校

新副会長ご挨拶



古財 武久
ルーテル学院を物心両面からお支えくださっている皆さま、私は今年五月に後援会の副会長を拝命致しました。教会の世話人として十四年目、推進委員として十年目を迎えております。今まで、後援会は竹内会長のバランスのとれた運営により、順調に歩んでまいりました。その流れを保ちつつ、これからは小澤会長を中心に、後援会の働きを活発にしたいと思っています。

昨年来、人と直接対話する機会が極端に少なくなっています。後援会をお支えくださる皆様方および世話人の方々と、どのように接し活動していくかが問われていると思います。一緒に考えてまいりましょう。よろしくお願いたします。(J保谷教会員)



神月 靖
学生時代に講義で、Berut (英, calling) という独語を聞きま

した。職業という意味に、神から与えられたという背景があるようですが、「キリストの心を心として神と世に仕える」人材を育てる本学は、このBerutに至る大切な道のりだと思えます。

コロナ禍の中で、社会と個人の関係を考えることが増えています。社会を作る個人の基盤としてのキリストの心を、今はより深く考える機会が与えられています。そのための学びの場をサポートするのが後援会だと思えます。私は経験が浅く知らないことばかりですが、Berutに至る後援の仕事できればと思います。よろしくお願申し上げます。(N六本木教会員)

神様に促されて

竹内 茂子



三十四年前、後援会の推進委員に推薦されてから真面目に、毎月の推

進委員会に出席してまいりました。キリストの伝道と福祉を実践するために「一人ひとりを大切に教育する」ルーテル学院大学・大学院・神学校を支える活動は素晴らしいものでした。

推進委員はいつも「ルーテル学院を支える」目標に向かって心を合わせ、真剣に、楽しく活動が続けてきました。全国の教会と学院を結ぶ懸け橋として、各地の世話人会に参加して交流を深めることができました。訪ねた教会員の皆様、世話人の皆様、協力してくださった牧師の皆様のお顔が懐かしく思い出されます。そしてそれは、私の人生の大きな宝物になっています。

何年も前の事ですが、学院で開催された信徒のための特別講義でアメリカの心理学者・マズローの「自己実現」を学びました。その内容は、身体保持・安全・仲間・名誉など自分が求めているものだけを実現させるのではなく、その努力をしながら神様から何を期待されているのかを感じ、その実現に努める事が「自己実現」であることでした。一体それはどんなことを示しているのだろうか？ 私にとつての長年の課題でした。



加藤 裕子
世話人、推進委員として二十五年間関わらせて

いただいた、心から感謝いたします。特にJELCの方々と共に働けたことは大きな恵みでした。世話人会、推進委員会で共に祈り、熱心に協議したことを通して、私も育てられ、多くの気づき、励ましをいただきました。大学、神学校と教会を結ぶパイプ役としての自覚も与えられ、教会でのアピールにも繋がりました。一日神学校や学院主催の行事に参加させていただいた事を懐かしく思い出しています。その事によりルーテル学院が、私にとって大切な学校となっていました。キリストの心を心として一人ひとりを大切に教育を実践しておられる先生方の姿に感動しました。推進委員を退くにあたり、今まで与えられた神様の恵みの跡を思い出しています。ルーテル学院の上に主の豊かな祝福がありますよう祈ります。長い間ありがとうございました。(前副会長/Nセンター教会員)



石原 京子
推進委員として二十七年の間に、五教区で開催されました集

会、世話人会に出席して多くの方々との出会いがありました。教会世話人の方に必ずお伝えしたことは、「私たちの教会には、神と世に仕える人を育成する大学が与えられている」ということでした。この感謝を分かち合えば重荷であった大学・神学校のアピールが喜びに変わるからです。礼拝堂にバツハの曲、賛美歌が厳かに流れるパイプオルガン、神学生生寮は後援会の働きの証しです。推進委員は退任しますが、私の役目は終わっていません。むしろこれから今以上に戴いた多くの恵に応えていく時だと思えます。私の側でいつも協力して頂いた市谷教会の世話人として学院・後援会から送られてきます要望の橋渡しをしたいと思えます。大学・神学校が教会員の熱い祈りと支援に添えて地の塩、世の光となる人を送り出してくださることを信じているからです。感謝。(J市谷教会員)

感謝の言葉

ルーテル学院大学 学長 石居 基夫

この度、長きにわたりルーテル学院大学・日本ルーテル神学校をお支えくださいました竹内茂子会長、加藤裕子副会長、石原京子委員の三名が後援会推進委員を退かれることとなりました。毎月の委員会、後援会ニュース発行の責任を担うばかりではなく、全国のルーテル教会からのお祈りとお支えを集め、学校に対しては力強い励ましと、時に厳しい言葉をお持ちくださいました。いつでも、全身で神様からの恵の器でいてくださいました。

ルーテル学院が「神と世に仕える人材」の育成という使命を果たし続けるために、新しい小澤周司会長のもとに後援会のあゆみは引き継がれてまいります。三名の方には、これからもお力添えをお願いしつつ、心からの感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

地区世話人代表の交代



大賀隆史さん (J札幌教会員) は、二〇一三年から北海道特別教区

の地区世話人代表としてご尽力くださいました。教区の修養会が開催される時は、事前に道内の教会を訪れて、ルーテル学院の歴史や後援会の働きを話しながら、お祈りと献金を呼びかけてくださいました。これまでのご貢献に感謝いたします。(事務局)



滝田裕美さん (J札幌教会員) は、大賀さんの

後を引き継いで地区世話人代表をお引き受けくださいました。現在、新札幌礼拝堂で奏楽奉仕をされ、また、若手教会役員としても活躍してこられた豊かな経験を今後の後援会活動にも生かしていただけることと期待しています。(事務局)